

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1【いきる】	①【かけがえのない生命】	教科(生活・社会) 総合的な学習の時間 他
2【かかわる】	⑨【仲間や地域の人々のつながり】	
3【そなえる】	⑮【大震災津波の様子と被害の状況】 他	

【テーマ】

「^{ほうじやく}宝積」の心をもったひとづくり

宝積：人に尽くして見返りを求めない
(第19代内閣総理大臣原敬の教え)

【復興教育の視点】

- 1 新設校として、学校・家庭・地域の連携による「スマイル・プロジェクト」2年目！
- 2 3つの願い ①開かれた学校 ②家庭・地域の教育力 ③子どもの安全・安心
全ての力(五者)が子どもたちの笑顔につながる。それが、岩手の復興につながる！

【各学年のひとづくりの具体像】

- 1年：年少者に思いやりをもって接することができる子
- 2年：異年齢の人と関わる楽しさを知ることができる子
- 3年：地域を愛し、つながり合う心を大切にすることができる子
- 4年：仲間に思いを寄せて、仲間と共に伸びようとする子
- 5年：よさを認め合い、笑顔で活動し、互いの絆を深め合おうとする子
- 6年：夢をもった「自分に誇れる自分」になり、復興を支え続けようとする子

【各学年の実践】

1年の実践

スコーレ幼稚園との交流会を中心に活動しました。お世話されることが多い自分たちが、幼稚園児とどのように接したらよいのか、何を伝えればよいかなどを考えて取り組みました。相手の立場に立ち行動することは、「ひとづくり」を進めるうえで大切なことだと実感した子どもたちでした。



1年：スコーレ幼稚園との交流

2年の実践

スコーレ高校の先生や高校生に教えていただき、枝豆とサツマイモを育てました。野菜作りを通し、小さい種や苗が大きく成長することの感動、収穫する喜び、交流の楽しさを実感できました。この異年齢交流は、子どもたちがいろいろな人と関わるための素地づくりになります。高校生も交流することで園芸などの専門性を生かしていました。



2年：スコーレ高校生とサツマイモ掘り

3年の実践

老人会の方のお話を聞く会や地域の見学活動を通して盛南開発に係る街づくりの工夫、小鷹さんさ踊りなどの伝承を受け継ぐことの大切さ、時代による生活の大きな変化にも気づきました。子どもたちは、住んでいる向中野のよさと人々の温かさを感じて、地域を愛しつつつながり合う心を大切にしていこうとする気持ちが育ってきました。



3年：地域を知るため老人会との交流



4年：宮古市立鉾ヶ崎小との音楽交流会

4年の実践

鉾ヶ崎小校長先生の講演会で沿岸地区の様子を知り、自分にできることはないか考え始めた子どもたちでした。初めて出会う鉾ヶ崎小の友達との音楽交流会の計画を立て、一人一役で主体的な活動を行いました。**宮古の友達に思いを寄せて、自分の生き方を考えて行動した**子どもたちでした。



5年：宮古市役所や災害FMの方から学ぶ

5年の実践

みやこ災害エフエムや宮古市役所の方から大震災の様子を教えてくださいました。自然の恐ろしさに驚くと共に復興や防災に取り組む方々の努力を知りました。**鉾ヶ崎小の友達と2年目の交流**を行い、防災カルタや魚市場での社会科見学をしました。**鉾ヶ崎小の仲間と絆を深めた**子どもたちでした。



6年：岩手大学で津波のメカニズムを学ぶ

6年の実践

6/9 向中野小で交流会を行い、**6/11 鉾ヶ崎小で「夢缶作り」**をしました。三鉄北リアス線に乗り田老地区で防災を学びました。また、岩手大学の教育学部・農学部・工学部で、学生・教授の研究から未来を見据えて学ぶことや**復興を支え続けることの大切さを知った**子どもたちでした。



保護者や地区の方々も復興教育 in 鉾ヶ崎

保護者の感想

鉾ヶ崎に来て間近にある海を見て、その時、そこに子どもたちがいたと思うと言葉が出なかった。**息子には、大震災が他人事と思わず、人の痛みが分かる心をもって欲しい。**

今、私たちは、一緒に歩き始めました。

未来という光を信じて、共に手を取りながら・・・
大好きなふるさとの海を見つめながら・・・
残された命をみんなで大切に守りながら・・・

これから、未来に向けて、

私たちには何ができるのでしょうか。

被災地の友達をいつまでも忘れないこと！

宝積の心と笑顔で、優しさを届けること！

岩手の復興を心からお祈りすること！

一歩一歩、前に進んでいくのです。

一緒に前に進んでいくのです。